

中学生の「税についての作文」優秀作品

『十日町納税貯蓄組合連合会 会長賞』

税バトン

十日町市立 南中学校 3年
蠣 原 さくら

私の父は乾癬という皮膚の病気を患っています。乾癬とは、免疫に異常が生じ、紅斑と呼ばれる紅い発疹が全身に出る病気です。アトピーのような十人に一人の割合ではなく、三百人に一人の割合で発症するため、あまり知られていません。乾癬は五種類あり、中には膿疱性乾癬という乾癬が指定難病に指定されています。乾癬は慢性で発疹を繰り返す病気なため、今の医療技術では完治しない病気ですが、薬などで発疹を抑えたり、消失することができます。なので薬を摂取しなければ症状を抑えられません。そのため、生きている限り医療費負担がかかります。そして私の父は、生物学的製剤を皮下注射で投与する治療をしているため、医療費負担がとても大きいです。しかし、高額療養費制度のおかげで、医療を受け続けられると父は言っていました。税の支出で一番の社会保障関係費は、私の父を支えてくれています。

私にとって税金を払う場面が少ないため、税金はあまり身近なものと感じにくく、遠い存在でした。しかし、社会を意識して見渡してみると、税金は身近なものであり、国民が豊かに暮らすために必要なお金ということが分かりました。

税金は公共サービス、教育、公共施設、医療などに使われています。税金は国民全員が平等に支えられているものの一つだと思います。しかし、税金を無駄遣いする人が後を絶ちません。救急車をタクシー代わりにする人、コンビニ受診する人など不必要に利用する人達を私は許せません。不必要に利用したことによって必要だった人が利用できず命を落としてしまった人がいること、みんなが汗水流して働いて得られた収入の一部が税金となり、この税金が不必要に使われていると思うと怒りの気持ちでいっぱいです。私は、このように不必要な使い方をされないために、不必要に使った人は罰金を払うなどの法で規定したり、税金についての学習会をすることが税金が正しく使われるための一歩だと思います。

そして、私が考える税金は「バトン」です。私は医療費を保険証、受給者証で安くなったことによって医療を受けられたことがたくさんありました。同じ経験をした人は多いのではないのでしょうか。これも税金でたくさんのバトンをみんなで渡し合っているからです。

中学生の私は、数年後には大人になり、社会に出て税金を払わなければならない日が来ます。ですが、税金を払うことによって誰かが救われてしあわせにできるなら、税金でバトンをずっと繋げていきます。